

国際部通信 第4号



5月12日は「看護の日」です。

近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日です。なお、5月8日は「国際赤十字デー」で、創設者であるアンリデュナン

発行：あさか開成高等学校

国際部

発行日：令和2年4月23日

本来であれば、4月30日の2,3年生の総学(探)の時間には、群馬県の前橋市役所の方が来校し、2020東京オリンピックのホストタウンとしての取り組みについてお話を伺う予定でした。前橋市にお願いしたきっかけは、昨年NHKで放送されたオリパラ関連の番組でした。市では、昨年11月よりオリンピックを目指す南スーダン選手団(コーチ1人、選手4人)の合宿を長期で受け入れ、様々な取り組みを行っています。

16 平和と公正を
すべての人に



南スーダン選手受け入れに至るまでの経緯(前橋市HPより)

南スーダンは2011年に独立した世界で一番若い国ですが、国内の不安定な情勢が続き、難民・国内避難民は合わせて400万人以上、国民の3分の1になっているといわれています。そうした中、独立行政法人国際協力機構(JICA)南スーダン事務所は、同国の支援策の柱の一つとして、「スポーツを通じた平和促進」を掲げています。

本市としても、「スポーツを通じた平和促進」に貢献できるのではないかと考え、同国選手の長期合宿受け入れを決定しました。

★南スーダンってどんな国？

南スーダンは、半世紀以上にわたって紛争が続いたスーダンから独立した国です。しかし、独立後、大統領(ディンカ族出身・政府軍)と副大統領(ヌエル族出身・反政府軍)の対立を背景に紛争が起きました。15年4月に暫定政府が成立されても国内各地で、政府軍と反政府軍の武力衝突が起り、平和への道のりは遠い国です。難民・飢餓・地雷・少年兵などの問題を抱えており、貧困率が高い国のひとつです。



★スポーツがもたらす交流と平和

国内の治安が悪化し、すべての民族が南スーダンの国民として結束することが大きな課題になる中、スポーツ省は民族の異なる若者の交流を促すことを目的にした「全国スポーツ大会」の開催をJICAに要請しました。JICAはこれに応じ、2015年から大会の開催に向け支援を開始。翌年の1月に第1回を開催しました。この大会は「National Unity Day(NUD)国民結束の日」と呼ばれ、第1回と2回はサッカー(男子)と陸上競技、第3回と4回はバレーボール(女子)が加わり、延べ1200人の若者たちが出場しました。サッカーの試合では、結晶の対戦は2つの部族の対決になりましたが、負けてグラウンドに泣き崩れる相手選手の肩を抱き、互いに検討を称えあう姿に観客から惜しめない声援が送られたそうです。というのも、開催前に一週間ほど同じ宿舎に寝泊まりし、交流が生まれたからだそうです。「話してみたら意外といい奴だった。」ということは、私たちの経験の中にもあることですが、こういった小さな相互理解の積み重ねが、この国に少しずつ平和をもたらしていくのかもしれない。



【前橋市はこの事業を行うにあたり、三つの意義があると考えています。(HPより)】

- ①選手がオリンピック・パラリンピックに出場し、活躍することにより「南スーダンの平和促進」に貢献できる。
- ②厳しい社会状況の中、ひたむきな努力を続ける選手の姿を間近で見ること、市民の皆さまが勇気や感動を得て、オリンピック・パラリンピックに向けた機運熟成につながる。
- ③市民の皆さまが南スーダンの選手たちと直接交流することにより、平和について考える良い機会になる。



コロナ感染のため、2020東京大会は来年7月の開催となりましたが、市によれば、今年7月まで受け入れを継続し、その後は本人たちの意向を交えながら調整するそうです。また、今後状況が落ち着きましたら、前橋市役所の方に、再度講演の依頼をする予定です。